

健康教育

題字 薬学博士 河合龜太郎

本誌の主張

1. 教育の基調は健康にあり
2. 栄養に関する正しい知識を普及する
3. 食生活の改善により国民体位の向上をはかる



身長 1メートル 60 センチ
体重 53.8 キロ
胸囲 86.5 センチ
座高 83 センチ

身長 1メートル 53.5 センチ
体重 51 キロ
胸囲 83 センチ
座高 85 センチ

(朝日新聞社提供)

NO. 4

日本一
健康優良児童

群馬県山田郡毛里田村立 新井利雄君
毛里田小学校
岡山県笠岡市立 笠原明子さん
金浦小学校

フィンランドの人々と国土



原島慶大教授

僅か100日と10日あまりの短い間でしたが、私は最近にフィンランドに留まり、そこでいろいろな人々に会って話す機会をえましたので、その印象を申しあげましょう。

北の隣国

フィンランドはスウェーデン、ノールウェー、デンマーク、アイスランドと北歐5ヶ国の1つに数えられています。これらのすべての国の国旗が十字をそれぞれの色で染めわけているように、文化や生活は互に似かよっているところが多いのです。しかし、また、異ったところがあるのはいうまでもないことです。たとえば、フィンランド語は他の4ヶ国語とは言語学的に全く関係がありませんし、あとの4ヶ国語は互に似ているところが多いのですが、それでも多少は違っています。

今年になって北極経由航空路が開かれてからは、スカンヂナビヤ諸国は日本からいえば、歐洲の北の入口になりました。この航空路によると、羽田をたつて、アラスカのアンカレッジに給油のために1度着陸するだけで、次ぎの終点はデンマークの首都コペンハーゲンの空港で、羽田からの実際に飛行している時間は30時間弱しかありません。北極をすぎて歐洲にはいると、まずノールウェーの上空を、それからスウェーデンのうえを僅かに飛んでいるうちに、もうコペンハーゲンの都市がみえます。地球上の時差を利用すると、金曜日の午前10時に羽田をたつと、翌日の土曜日の午前7時半にはコペンハーゲンにつくので、午後にある会議には十分間に合うのです。フィンランドの首都ヘルシンキにはこのコペンハーゲンから飛行機で2時間半でゆくことができます。

フィンランドは北歐のうちでもいちばん北にある国といわれています。この国の北の3分の1は北極圏のなかにあり、この地方では、夏2

慶応大学教授 医学博士 原 島 進

ヶ月半は、太陽が沈まない、夜のない日々が続くのです。冬は太陽をみない暗い日だけになるわけです。

このような厳酷な気候のために、フィンランドの国民は400万ばかりに過ぎませんが、その大部分は国の南部に住んでいます。全国土はわが国よりもすこし狭いだけで、そこにわが国民の20分の1にあたる人々が住んでいるわけです。首都ヘルシンキの人口は40万で、これがこの国で最大な都市です。

森と湖と岩の国土

氷河時代の遺跡として、国土の基盤となっているのは堅い花崗岩であって、その低いところに湛えられた水は無数の静かな湖になっています。土地には、無限に続く森林が被っていて、牧畜と農耕のために、その一部を開拓せねばなりません。森林の木々の主なものは、赤松と白樺と樅ですが、これらは、この国民の財産というべきもので、木材とパルプは主要な輸出品であり、その価額によって、工業資源を外国から買って、生活必需品を作り、それを国内用とし、また、その一部を輸出して、国の経済の収支をはかっているのです。この国の気候として永い冬は樹木の生育に不利ではありますが、短い夏の3ヶ月も、気温こそ摂氏20度を超えるのは稀であるとしても、夏の日の日照時間が15時間以上もあるのは森林業にとって、われわれが考えるほど不利ではないように思われます。森林から



ヘルシンキ市内のある小学校の校舎と校庭。(原島教授撮影)

切りだされた材木は湖の氷が溶けはじめる冬の終わりから夏秋を通じて、湖と自然の川と運河とを水路として、都市にある木材、パルプ工場に運ばれるのです。

湖は森林に抱かれていますし、また、気候には激変がないところから、この国の森林と湖とは静寂と神秘とをたたえていて、この自然はこの国土に住む人々の性格に特徴ある影響を及ぼさずにはおこななかったわけです。そして、この国民の心を神秘なまでに深く静かにしたのではないかと私は考えるのです。これは、芸術の面でもよく知ることができるのであって、この国民が誇とするシベリウスの音楽を聞いた人はすべて気がつくことです。

国土の基盤をつくっている花崗岩の堅さは、また、この国の人々の心の底にみられるものです。フィンランド語で、これを SISU といいます。不利な自然の気候と戦いながら森林を開拓してきた忍耐力や12世紀からのスウェーデンとの結合、それにつづく19世紀のロシアによる領有の後に、1917年の終りに自由と独立の国になることができたのは、これによるのです。また、1940年と1944年の両度のソビエトとの戦争の痛手の回復やドイツ軍によって荒らされた北部ラップランドの復旧とソビエト領に編入されたカレリヤ地方からの復帰者の収容などに示した刻苦と成功はこの sisu 心によるといわれています。

自然とスポーツへの熱情

現在のフィンランドとその国民とは新興の気運に満ちているといつてよいでしょう。産業は急に盛んになり、都市は新らしく造られています。ヘルシンキやその他の主要都市の近代化した容貌は、他のヨーロッパの都市とくらべて劣るところは全くありません。

そして、人間のつくる文明や文化と自然とを美しく調和させることを、この国の人々は忘れていません。人口40万の首都ヘルシンキを歩くと、高層アパートの並ぶ住宅街の裏には、森の多い公園があり、市内のドライブウエーの片側には海がみえ、静かな波の彼辺には鳥々が浮んでいる景色にみとれることが多いのです。

こんなに自然を愛し、しかも、それを生活のなかに取りいれているのは、この国の人々が恐ろしい自然と戦って国民生活を今日の状態にまで築きあげてきた歴史により、また、国土の大部分が昔ながらの大自然の

ままにあるためとはいえ、他のヨーロッパの国々よりも勝っているように思われます。

実に、フィンランドの人々は自然の寵児ともいうことができましょう。そして、この自然が彼等の性格をつくりあげました。人に対する寛容と自らへの厳格、外に現われる快活と内にたたえる憂愁、外国人に示す親愛と内気というふうに、二つの相反する性格がみら



フィンランドの子供たち、後にみえる建物は彼等の住むアパートです。(原島教授撮影)

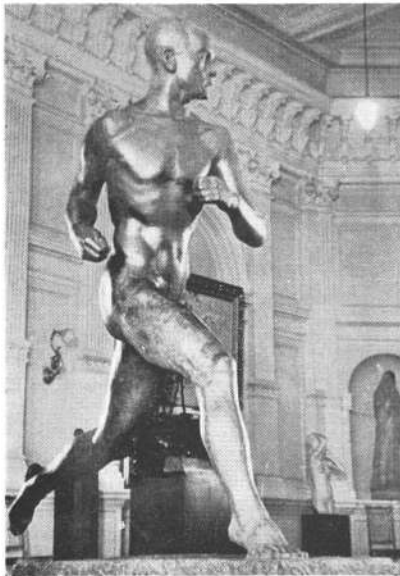
れるのは、自然の恵みと怖れとの両面をよく知るこの国の人々の性格ということができましょう。

スポーツを愛好する気質も、また、自然との戦に耐える心身をつくりあげなければならないという生活上の要請によってできたものといえましょう。1952年の世界オリンピック大会当時の競技場やその他の施設は今日もなおこの国の人々のスポーツのために開放されています。長、中距離競走チャンピオンであったスルミ氏は今はヘルシンキの繁華街で運動具店を営んでいます。その人気は昔のとおりで。

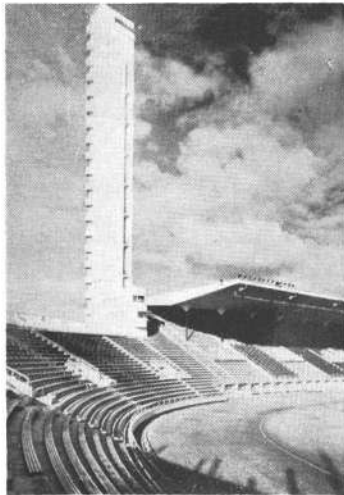
夏は自然の恵みをうける時です。6, 7, 8月には学校の休暇ですし、職業につく人々も最短2週間の有給休暇をとることができます。この季節は気温がいちばん高いので、森林の緑は生々としているし、湖も水ぬるむ時です。キャンピングや湖畔の宿舎に長い日を楽しみ、心身の休養をとる時です。そして、この休養は限られた一部の人々だけに許されたものではなくて、この国の老若男女を問わず、すべての人々がこの機会を利用してのことをつけ加えておかねばなりません。人々はそのために貯金しておくし、また、公共施設もこのために準備されていることは賞讃すべきことと思われ



↑森林に抱かれている湖の風景
(フィンランドの東部、機上より)

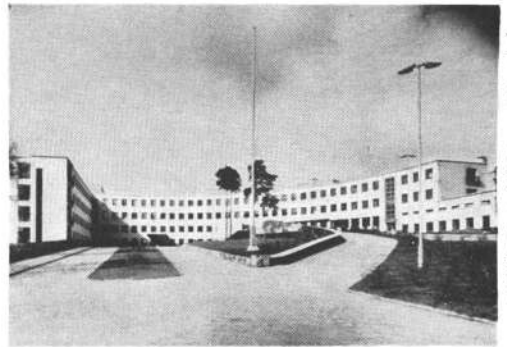
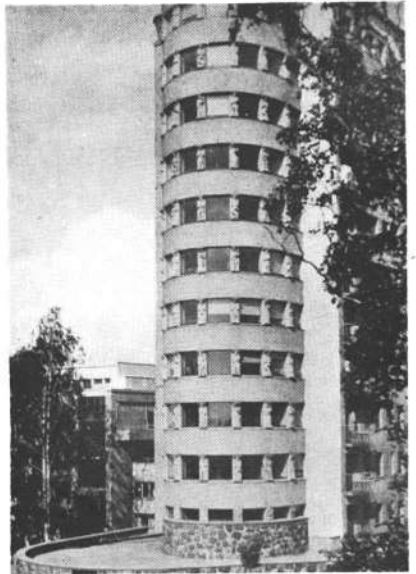


←ヌルミ氏の像(記事参照)
長・中距離競争のチャンピオンであった



←競技場(ヘルシンキ)
6万人の観衆を収容するオリンピック

→
ヘルシンキの子
供のお城
このお城は小っ
ちやい赤ちゃんか
ら学童にいたるま
で150人の幼い患
者達を同時に収容
することができます。
子供のお城で行
っている保姆養成
の期間は1ケ年
です。
1953年までに
2607人の保姆さ
んが養成されまし
た。



←ヘルシンキに在る小児病院

編集後記

- 原島、吉田両先生が海外御視察の旅から最近お帰りになられたので、特にお願して其の視察談を御寄稿頂きました。お蔭で異色ある本誌を送り出すことができました。両先生に対し厚く感謝の意を表します。
- 御殿山、高松両校は此の度栄えある表彰をお受けになりました。両校長先生をお訪ねして、其の御苦心談をお聴きいたし、心温る思いでした。特に御寄稿をお願いした次第です。両先生に対し深く謝意を表します。
- フィンランド公使館並に朝日新聞社から貴重なお写真を拝借いたしました。本社の主張に深く御共鳴いただいたことを厚く御礼申し上げます。
- 南極探検越冬隊員の栄養補給用として、本社のビタミンA・D剤が遠い南極まで栄えあるお伴をいたしました。これは同隊の栄養食糧部門担当世話役の慶応大学医学部原教授の御推薦によるものであります。このことは平素多くの方々の本社に対する厚き御協力賜ものと深く感謝いたし一層の責任を感じる次第であります。
- 米年4月から食品の目掛量がすべてgで計算することになりますので、その目掛量をgで現して見ました。僅に一部のものにすぎませんが、少しでも御参考になれば幸であります。
- この程国立栄養研究所で働く婦人達300人の弁当について其の栄養価を調査したところ、労働力にふさわしい栄養は全部足りず、特にビタミン類はゼロに近かったということです。日本の女の食生活が、男よりはるかに劣ることは、指摘されるべき問題ではありませんか。
- 文部省では本年7月行った学校衛生統計調査の結果、次期国会に学校保健法案の提出を予定するに至ったということです。だいたい健康教育のため其の実現を期待します。
- 流感には特效薬がないので、治療のキメ手がなく心配されていますが、ビタミン類特にA・D剤を摂って、からだ自体の抵抗力を強めることが特に望ましいことだと指摘されています。皆さんの一層の御健康を祈って止みません。

(和 出)

米国における肝油使用の現状

河合研究所長 農学博士 吉田 正 信



ニューヨーク、ロックフェラーセンターに於ける
吉田博士
(ニューヨークにて本社西垣隆氏撮影)

米国はビタミンAの供給源を日本、ノールウェー等から輸入した肝油に依存していたので、戦争中Aの欠乏の苦い経験を味いました。終戦後再び日本から大量の肝油を購入して今日に至っています。近年A合成工業の発達の影響をうけて日本産肝油の対米輸出は減少したとはいえ、

昭和31年度2500トン、金額で300万ドルに達しています。

米国で肝油がどのように用いられているか、今後の肝油輸出の見通しが如何であろうかといった事を調査に本年6月米国へ行ってきましたので、米国のビタミンAに関する状況を紹介することにしましょう。

現在の米国のビタミンA生産は170兆国際単位という大きな量で、これが医薬品、食品、および飼料の強化に用いられています。Aの消費量は3年前に比して2倍に増加しています。日本で使用されているAの量は5兆単位程度で、米国のA消費量が如何に多いかがわかります。

ビタミンAは単独でも用いられていますが、他のビタミンと一所に総合ビタミン剤として使用される量が多く、多数の製薬会社が多種多様のビタミン剤を製造して居ます。小児用、妊産婦用といったものも販売されています。薬局でもビタミン剤を大きく取上げて居り、ビタミン専門の販売店もあります。また薬品ではなく食品の栄養補強剤としてビタミンを販売員が家庭訪問して売っているものもあります。

米国のビタミン剤には油剤、水溶性製剤、カプセル剤、錠剤等種々のものがありますが最も多いのは

カプセル剤です。日本では肝油剤はゼリー、ドロップ、糖衣錠等で、かんで服用するものが普通ですが、米国では丸のみするカプセルが広く使われています。デトロイトにある有名な製薬会社パーク、デビスの工場を訪問しました。1台25万ドルするというカプセル製造機械が29台並んで居り、赤、青、黄など10数種の美しく着色したカプセルが製造され、1日に1450万個の生産能力があるとのことでした。

ビタミンの摂取が普及して居り、一般の人々がビタミンに対し深い関心を持っていると感じました。乳幼児に肝油を与えることは殆どの家庭の常識となっているそうです。最近牛乳等に滴下して与えるビタミン濃度の高い製剤がつけられています。

近來栄養上高血圧、動脈硬化と関聯して肥満症が問題となっています。米国では全人口の15%が標準より体重が多く、病的な体重過多であって一種の栄養障害と見ることが出来るといわれています。ニューヨークに健康食品の販売店が2ヶ所あって繁昌しています。カロリーを低めた食品、食塩のない食品、ビタミン類等を扱って居り均衡のとれた食生活を勧めています。日本では白米食偏重のため含水炭素の摂り過ぎとビタミン類の不足が問題となって居り、東北地方の米作地帯の高血圧患者、脳溢血の多いことと、ビタミン摂取の関係が研究されています。動脈硬化、高血圧等老人



児童が通学の往復に友達の交通整理をしているところ
(シフトルにて本社西垣隆氏撮影)

病は遠く年少時代からの栄養欠陥に由来するといわれ、健全な身体を築き上げるため均衡のとれた栄養が大切であります。国民栄養調査によると日本人のビタミン摂取は調理による破壊を考慮に入れると A 60%、B₁ 45%、B₂ 55%、C 25% も不足しています。かかる現状から米国以上にビタミン補給を重要視せねばなりません。

米国のビタミン界で最近の注目すべきことはビタミンAの合成事業のすばらしい発展であります。もともと米国では肝油資源に乏しく、この対策としてAの合成の工業化に力を注いだのは当然のことといえます。今次大戦中スイス、米国等で研究されていたAの合成が昭和21年完成され、米国が巨額の資金を投入して、その工業化に努力して、昭和25年頃から合成Aが供給されるに至りました。初めの頃 100 万単位につき36セントであったものが昭和30年には10セントに値下げされて優に天然肝油と競争し得るようになり、急速に販路が拡大されました。

合成ビタミンAの主原料は南方で得られるレモン・グラス油から製したヨノーンで、これから出発して化学的にAを製造するもので、現在米国で4つの会社がA合成を行って居り生産量は年に 100 兆国際単位に達しています。従来肝油を原料としていた医薬品の面で90%までが合成品で置き換えられ、またマーガリンには1ポンド当り 15000 単位のAを強化していますが、数年前から肝油の代りに合成Aをこの目的に用いるようになりました。日本産肝油は合成品によって著しい圧迫をうけている訳です。これは魚油臭のないこと、一定した品質のものが必要な時に直ぐ手に入ること等の理由によるものであります。今日日本から輸入される肝油は何に使用されるかという大部分が家畜特に鶏の飼料のA強化用に向けられています。米国の配合飼料工業は重要産業の一つで、殊に近年はビタミン類、鉍物質、アミノ酸等の微量成分の配合に著しい進歩を示しています。この点動物の方が人間よりも栄養完全な食物を摂っているような状況です。この飼料へAを配合するのに肝油が用いられています。Aの添加により発育が良好で丈夫になり、鶏の産卵に好影響を与えることが多くの実験で確認されています。

ビタミンAは酸化によって破壊され易いので、飼料

に配合した場合Aが安定に保持されることが第一に大切な事であります。この目的にAをゼラチン等であるので空気から遮断した粉末状のものが近年飼料の面に進出して来ました。

日本でも漸く昨年から配合飼料にAの添加が広く行なわれるようになりました。日本人の栄養改善に動物蛋白の増産は大切な事で、この方面の肝油の役割も重大といわねばなりません。今日日本人のビタミンA摂取量が極めて少ないことは一般に認識されています。如何にしてこの欠陥を是正するかは保健上重要問題で各方面で対策が検討されています。

日本は世界で最も優秀な肝油の生産国であって、日本近海で獲られる魚肝油は外国産のものに比して遙かに多量のAを含んでいます。既に記したように米、欧州、アジアの諸国へAの量で 100 兆国際単位に達する



在郷軍人の行進を見物する黒人の夫婦、国旗の通る度に夫婦が挙手の礼をしている

(シカゴにて本社西垣長隆氏撮影)

大量の輸出をしています。Aの合成事業は種々の制約があって日本では困難であるので、恵まれた肝油を利用することが最良の対策であります。これに二つの方法があります。一つはビタミン製剤、他はビタミンA強化食品です。A強化食品としては既に粉乳、人造バター等へ実施されて居り、更に味噌、ソーセイチ等の水産加工品、進んではパンへの強化の研究が行われて居ます。食品強化用の安定な粉末状の肝油も製造されています。これ等の目的に適合した高濃度のビタミンA濃縮物製造も数年前から進められ、魚油臭のない、味のよいものが生産されるに至りました。更に品質良好のものが安価に製造出来るよう一層の研究が必要であります。かくして合成Aに対抗し得、且つ一般日本人の保健のため大きく寄与することが出来ると思えます。

32年度健康優良学校として東京都教育委員会より表彰された両小学校

健康優良学校としての表彰をうけて

東京都品川区立御殿山小学校長 菅井 証 松

本校は昭和3年の創立であるが開校当時から今日までほぼ児童数が固定しているのが特色で、現在12学級のこじんまりした学校である。戦災にも遭遇し、主たる校舎は焼け残ったが今は危険校舎一步前といったところである。さて本校が戦後健康教育について特に深い関心をもち始めたのは今からおよそ6年前で、昭和27年に学校保健委員会を創設し、続いて健康教育のカリキュラムを設定するなど健康教育の推進に必要な態勢が一応整えられ、それ以来学校保健委員会を中核として保健活動が漸次活潑になってきた。即ち健康管理ならびに健康指導の面が次ぎ次ぎと具体化され、昭和29年度には健康教育の効果をあげるには如何にすべきかについて公開の研究授業も行なわれたのである。

健康管理についてはまず定期的な身体検査およびレントゲン検査の回数を年3回とし、健康観察、検便などを励行して胸部疾患の早期発見、トラホーム、偽菌、寄生虫等の撲滅に力を尽し、蛔虫については遂に完全駆除に成功して当時あま



手をいつもきれいに洗っている児童たち（後向の右菅井校長、左杉木保健主事）

本校経営と健康教育

教育基本法の第一条にうたわれているように、自主的精神にみちた心身ともに健康な国民の育成こそ、人間教育の基本的な目標であって、あらゆる教育活動の場に於て特に重視され、常に強い配慮がなされなければならない問題である。然るに稍々すると、親も教師も、教科の成績により多く心をとらわれて、人間教育のこの根基



関口 校長

を忽せにしがちであることは真に遺憾である。本校に於ては深くこの点に思いをいたし、健康教育の基本的な目標として取り上げているのは、大要次の五点である。自分の生命に対する尊厳性の自覚と、健康、安全の保持増進をめざして、

- (1) 自分の健康を保持し増進するために必要な、基本的な習慣、態度、知識、技能を身につけること。
- (2) 病気を予防するために必要な習慣、態度、知識、技能を身につけること。
- (3) 日常の安全生活に必要な習慣、態度、知識、技能を身につけること。
- (4) 自分の心身の成長と、健康についての関心と理解をたかめること。
- (5) 家族や社会の人々の健康増進に寄与し、協力する習慣、態度を身につけること。

然してこの目標に徹した健康教育を、学校全体に、又地域に、更には個々の児童の生活に滲透せしめることは、1, 2の熱心な教師の力や養護教諭や、学校医の努力のみでよく成し得る

り前例を聞かないこととして各方面から多大の注目を惹いたのである。また指導の面に於いても小学校の健康教育がそのねらいとするところは主として健康維持に欠くべからざる習慣形成にあるとの建て前のもとに昭和27年度から時間を特設し、教科外活動の時間の一部を健康指導の時間にあて、特に手洗いの励行に努め、さらに健康に対する児童の自覚を促す手段として各自に健康手帖を用いさせて指導することとした。また毎月「保健ニュース」を発行して保護者の啓蒙に当り家庭の協力方を要請したのである。斯くて漸く学校の意図している成果を見るに至り、昭和30年には東京都教育委員会から学校保健委員会としても表彰され、今回また重ねて健康優良学校として表彰をうけるに至ったのである。

おおよそ教育については一朝にしてその効果を見ることは困難である。本校の健康教育に於いても保健主事のなみなみならぬ苦勞のあったことはもちろんで、その間保健所の協力、殊に駆虫に対しては一個人として援助をいただいた長野博士の蔭の力に俟つこと多大であったことを附記してこの稿を結ぶ次第である。



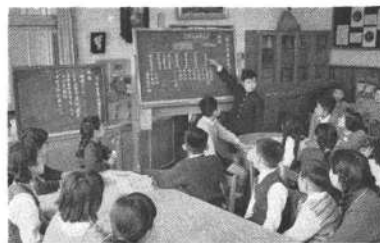
菅井 校長

東京都豊島区立高松小学校長 関口 理 三 郎

ところでない。何としても、全職員、地域関係者全員が、真に一体となって、校の内外によき環境と、よき雰囲気をつくり、その中で健康についての関心を高め、健康生活についての理解を与えて、自主的に自分の健康を増進し、安全を保持するように導くことが肝要である。

この仕事を強力に推進するため、本校においては、学校経営上今年度は特に次の点に一段の努力を試みつつある。

- (1) 全教師が健康教育についての研究と活動を分担するため、全員が三つの分科会の何れかに属し、大体毎週分科会を、毎月全体会を持ち、統一性のある研究と実践を進めている。
- (2) 各種保健委員会の問題点を反省し一段とその強化を図る。
- (3) 健康観察、健康相談の研究を深め、一層その実績のあがるようにつとめる。
- (4) 学校環境整備のため、児童、教師、父兄が一体となり、時々共同作業等を行う。



議題を討議している児童保健委員会

- (5) 学校と家庭、地域との連絡を一段と緊密にするため、健康ノート、健康日記の活用、健康ニュースの発刊を図ると共に、班別親子会を強化する。

食品重量目安表並ビタミンA含有量

食品名	目掛量	目掛重量(g)	V.A含有量(I.U)	食品名	目掛量	目掛重量(g)	V.A含有量(I.U)
白米一七分搗米	1 合	140	0	焼竹輪	1 本	120	0
玄米	1 合	150	0	鶏卵	1 ケ	50	400
押麦(大麦)	1 合	90-110	0	牛乳	1 合	180	180
小麦	1 合	130	0	ほうれん草	小 1 株	30	1,200
小麦粉	1 合	100	0	にんじん	長 1 本	200	13,500
ク	大匙山 1 杯	20	0	きゃべつ	中葉 1 枚	50	0
とうもろこし粉	1 合	130	20	大根葉	中 1 枚	15	675
食パン	1 斤	450	0	大根	中丸 1 本	100	0
甘藷	小丸 1 本	100	5	玉葱	卵よりやや大	70	0
馬鈴薯	卵大 1 ケ	70	0	ごぼう	大 1 本	200-230	0
大豆	1 合	120	10	蓮根	中 1 節	150	0
小豆	1 合	140	14	小かぶ	小 1 ケ	20-25	0
豆腐	1 丁	300	0	林檎	小 1 ケ	110	6
味噌	梅干大	22	0	みかん	小 1 ケ	50	500
いわし頭及骨ぬき	大 1 尾	50	30	昆布	中巾 3 寸	3	7
目刺	中 1 尾	15	25	ひじき	大匙 1 杯	10	23
さんま	中 1 尾	120	144	海苔	1枚(上級品)	2	445
生いか	大 1 尾	300	15	醬油	茶匙 1 杯	4	0
かつを	切身 1 ケ	70	28	砂糖	ク	5	0
浅利むきみ	1 0 ケ	30	30	カレー粉	ク	2	10
蛤むきみ	1 ケ	10	10	食塩	1 合	165	0
はんべん	1 枚	140	0	トマトケチャップ	大匙 1 杯	10	40

(日本栄養士会編、食品標準成分表に依る)

河合製薬株式会社の沿革

明治44年現本社会長薬学博士河合龜太郎が肝油の安定な固形乳剤製造法を發明し、日・英・米・仏・露の特許を得て本邦に於ける最初の肝油製剤として肝油ドロップの製造発売が開始された。

大正12年東京本所緑町に工場を設立、肝油のビタミン濃縮法を發明、新に濃厚肝油、ビタミン肝油球の製造を行う。

昭和7年アルカリ消化法による肝油製造法を發明、内外諸国の特許を得、東京向島、北海道函館、朝鮮釜山、樺太大泊に製油工場を設立。

昭和7年より学童・生徒の健康増進の目的を以て学校用肝油ドロップの製造を開始。その普及に努む。

昭和14年東京中野区住吉町に本社・工場・研究所設立。

昭和20年戦災を蒙り、現在の野方町に本社・工場・昭和通に研究所を復興。

昭和30年東京板橋に分子蒸溜・分解・精製工場並に研究部を新設。

最近更にビタミン安定化家畜飼料強化剤の研究製造を開始。

本社の製品



カワイ肝油ドロップ
食品添加剤アドリッチ
飼料強化剤ピタード

カワイ綜合肝油ドロップ
カワイカルシウム錠
ビタミンA {アセテート
 バルミテート

粉末肝油アドベリン
カワイ駆虫錠
輸出ビタミン油

河合製薬株式会社

東京都中野区野方町2-1171
電話 中野 (38) 0443-0445

河合研究所

東京都中野区昭和通2-23
電話 東京 (36) 3746-5891